

【名古屋出張レポート】

過去の記憶から現在地へ。名古屋訪問で見た 「社内報の力」と「ビジネスのスピード感」

「かつて学生として通っていた『大学』という場所に、インターンや採用を提案する側として訪問する」。先日、岸本CKOに同行した名古屋出張は、私にとってそんな新鮮な驚きと緊張感を持ってスタートしました。

初めての名刺交換に始まり、アポなしでのキャリアセンター訪問のドキドキ感、そして名古屋支社を牽引していくリーダーの圧倒的な熱量まで。現場で「社内報」がどう受け取られ、どんなスピード感で物事が動いていくのか。リアルな学びが詰まった出張レポートをお届けします。

8:45 名古屋到着：過去の記憶と、ビジネスパーソンとしての現在地

午前8時45分、名古屋駅に降り立ちました。実は数年前、高校生の頃に一度訪れたことのある名古屋。しかし、同じ場所に立っているはずなのに、仕事として訪れたこの街は当時とはまるで違う景色に見えました。懐かしさと同時に、ビジネスという新しいレンズを通して街を見つめている自分に気づき、身が引き締まる思いでのスタートです。

1件目：名古屋国際工科専門職大学へ。「私の役割」の再確認

到着の余韻に浸る間もなく、最初のアポイントメント先である「名古屋国際工科専門職大学」へ。新宿のコクーンタワーも印象的ですが、名古屋にも同じように圧倒的な存在感を放つ特徴的な校舎が見えてきました。

現地には15分前に到着。いざ建物を前にして緊張感が高まる中、私にとっての大きな壁.....「名刺交換」の瞬間が迫っていました。どう準備して、どう渡せばいいのかわからず戸惑っていた私。様々な準備を進めていると、あっという間に5分前に。

名刺交換はできましたが、その際岸本CKOが、先方へ「実は今日がデビューなので」と温かくフォローを入れてくださいました。このサポートのおかげでスッと肩の力が抜け、「今回の訪問での私の最大の役割は、とにかく『学ぶこと』にある」と再確認。



いざ訪問すると、大学の担当者様は非常に好意的に私たちを迎え入れてくださいました。ここで活きたのが、東京の姉妹校での実績をまとめた「社内報」です。担当者様にご覧いただくと、「実際に文章として実績が形に残されていることは素晴らしいですね」とのお言葉をいただきました。私たちが作っている社内報が、社外の方への信頼構築にも繋がるという事実は、今後の社内報づくりの大きなモチベーションとなりました。

そして本題。HALZとして、「名古屋支社新体制」での実習の受け入れをご提案したところ.....
なんと、大学側から信じられないスピードで逆提案をいただく展開に！

「今夏、4年生の実習先として受け入れてもらえないか」

HALZにとって願ってもない大チャンスであり、もちろん前向きに検討させていただくことになりました。面談を終え、出口までお見送りいただいた際、岸本CKOがあまりの展開の早さに思わず「(来年ではなく) 今年の話ですよね!？」と念押しで再確認してしまう一幕も(笑)。

巨大な校舎や、トヨタをはじめとする地元産業との強固な繋がりを持つ名古屋。現在HALZに来ている3名のインターン生を見ているので、実学的に4年間学んだ学生がどれほどのポテンシャルを秘めているのか、今から期待で胸が高鳴ります。

2件目：名古屋大学へ。

地域と共生する広大なキャンパスと「観測史上最速の桜」



読みにくいですが

名古屋大学

です(笑)

1件目の興奮冷めやらぬまま、地下鉄に揺られること20分弱。

「名古屋大学駅」で降りると、さすが旧帝大。目の前には圧倒的なスケールのキャンパスが広がっていました。見渡す限りの見事な芝生があり、春休み中のため学生の姿は少ないものの、近所の幼稚園の子どもたちが散歩や遊びに来ていて、地域と共生している穏やかな風景が印象的でした。

少し早めに到着したため外で待機していたのですが、ここで思わぬ洗礼が。照りつける日差しが、とにかくスーツには暑い！額に汗をにじませながら力強い春の訪れを感じていたのですが.....後からニュースを見て深く納得しました。なんとこの日、名古屋では「観測史上最速タイ」での桜の開花宣言が出されていたそうです。「そりゃあ暑いわけだ.....！」と、後になって妙に腑に落ちました(笑)。

名古屋大学での面談では、2月末（土曜日）に開催された私たちの説明会に足を運んでくださった方が担当してくださいました。説明会でのお話をしっかりと覚えていてくださり、非常に好感触です。

ここでも「社内報」をお渡しし、博士課程や留学生、理系人材の事例についてご提案しました。お話を伺う中で、大学側が抱えるリアルな実情が見えてきました。

- 留学生の多さと、受け入れ先への強いニーズ
- 文系の博士課程におけるアカデミックポスト不足というキャリアセンターの悩み
- 強い「名古屋愛」（名古屋で働ける場所があることが強力なアピールポイントになる）

これらはすべて、実際に対面で足を運び、直接お話を伺わなければ決して分からなかった現場の生の声です。ヒアリングのフックとして「社内報」を準備していたことは大成功でしたが、同時に「クライアントの課題に対して、どのような実績を社内報としてコンテンツ化し、武器として用意しておくべきか」という新たな課題と必要性も強く実感しました。



（※おまけ：昼食は名古屋大学内のカフェへ。想像を超えるボリュームなサンドイッチに、「学内でこのクオリティ！？」と胃袋まで驚かされました。）

3件目：南山大学へ。至近距離のはずが...？坂道・暑さとの戦い

ボリュームなサンドイッチでエネルギーをチャージした後は、午後からの訪問先「南山大学」へ。こちらはアポイントメントなしでの訪問だったため、少し不安を抱えながらの出発です。

実は、名古屋大学と南山大学は地図で見るとすぐ隣と言えるほどの至近距離にあります。そのためスムーズに移動できるかと思いきや.....ここで思わぬ試練が。距離は近いものの、キャンパス間の道中は上っては下る坂道の連続だったのです！

カトリック系の私立大学である南山大学は、構内マップを見るとテニスコートが5面、さらにゴルフや和弓・洋弓の練習場まであり、スポーツ施設の充実ぶりに驚かされました。

しかし、その広大なキャンパスにたどり着くまでに、最速タイの桜を咲かせた暑さも相まって、みるみる体力が削られていきます。「いくら近くても、もしこれが真夏だったら絶対に歩けない.....」と心の中で深く痛感するほど、なかなか過酷な道のりでした。

iii HALZ



ひと気のない春休みのキャンパスに到着し、「本当にキャリアセンターに人はいるのだろうか.....？」とドキドキしながら窓口へ。しかし、そこは岸本CKOの「私立大学はキャリアセンターの対応はしっかりとしている」という読み通り。アポなし訪問にもかかわらず、快く書類を受け取っていただくことができ、ホッと胸を撫で下ろしました。

4件目：名古屋支社へ。新体制メンバーとの顔合わせとリーダーの熱量

南山大学での過酷な（？）ミッションを終え、次に向かったのはHALZ名古屋支社です。地下鉄の今池駅から歩いてわずか2分という好立地！坂道との戦いを終えた体には、この駅からの近さが本当に身に染みました（笑）。

ここでは、今後の名古屋支社新体制に向けたインタビューを実施しました。

名古屋支社新体制のリーダーとなる坂さん、そして今後新たに入社される浅野さんとの顔合わせです。詳しいインタビューの内容はまた改めてたっぷりお届けしますが、今回お会いして何より強く印象に残ったのは、リーダーである坂さんの言葉の端々から溢れる「熱意」でした。観測史上最速の桜を咲かせた今日の気候に負けにくいぐらいの熱量に触れ、名古屋支社のこれからの飛躍を確信した時間となりました。



出張を終えて：社内報への熱意と、成功の秘訣である「スピード感」

これにて、怒涛の名古屋出張スケジュールはすべて終了。

ひとまずの安心感とともに、今回の出張を通じて「今後の社内報をどう作っていくべきか」「どんなコンテンツが現場の武器になるのか」という制作に対する熱意が、自分の中でより一層強くなるのを感じました。

そして驚くべきは、私たちがこうして各所を駆け巡っている水面下での動きです。なんと、朝イチで訪問した「名古屋国際工科専門職大学」様からいただいた実習受け入れの逆提案への対応が、すでに裏側で進行していたのです。この圧倒的なスピード感こそがビジネスを成功に導く秘訣なのだと、身をもってひしひしと感じた、非常に濃密で学びの多い名古屋出張でした。

今回の社内報では、今回顔合わせをした名古屋支社の新体制メンバーへのインタビューをたっぷりお届けします！

HALZとして、新生名古屋支社を通じて「支社運営・チームづくりのモデル」を坂支社リーダーの下、新名古屋メンバーで作っていく。その会社の熱い意思を今回の記事で皆さんにお伝えすることこそが、今回の私の出張の最大の目的であり、目標達成です。

次回の名古屋支社紹介編も、ぜひ楽しみにお待ちください！